

風土



春の月

神蔵器

さいたさいた三岸節子のさくらがさいた

花吹雪母ゐて泪追ひつけず

いづこにも青山のあり桜咲く

十^{じゅう}二^に束^{そく}三^{みつ}伏^ぶせ矢の貫けり桜満つ

もつれつつ初蝶のぼる天の階

田螺のこゑ聞かず傘寿の誕生日
酒中花は波郷の椿深^み空^{そら}あり
いくたびか月の夜を経て椿かな
啓蟄やことに三鬼の武者ぶるひ
山攻めて雪代山女釣りに出づ
天上にはやこゑのあり雪解川
龍太逝きて七日の後の春の月

悼飯田龍太先生



竹間集

同人作品



「櫛」以後(七十八)

野沢しの武

残菊を月命日の母に剪る
葬り果て真直ぐ秋の海を見に
位致の拉の字義はひつぱるうそ寒し
蓑虫の蓑着て堪ふる山の雨
櫛の実や父との旅の一度きり
勉学地津軽は遠し林檎に蜜
稿一枚仕上ぐることも冬用意

初詣

鈴木石花

血圧のグラフ落着く冬木の芽
日々望む赤城嶺に雪遅れをり
境内に投句箱ある初詣
一人には惜しき眺望寒灯
わが街を称ふ寒中同窓会
合唱のドレス仕上る女正月
常葉の数減らされし春隣

寒卵

山路紀子

身の芯に落す太陽寒卵
うすにごりして人日の神田川
寒禽の零るる青菜畑かな
食卓に踊る太陽寒卵
雪吊りの縄集まつて天を刺す
茶屋街の紅柄格子風花す
春近し風の軽さの金の箔

雪 月 夜

— 小林 輝子 —

初 挽 は 槐 の 肌 の こ け し か な
七 草 の ひ と つ 足 ら ぬ は 仏 の 座
人 の 日 や カ ッ プ ラ ー メ ン 試 し 買 ひ
木 花 咲 く 道 一 本 に 村 出 づ る
湖 の 面 に 雪 の 山 々 た た な は る
己 が 影 の 中 歩 み ゆ く 寒 鴉
一 灯 に 孫 子 洋 犬 味 噌 雑 炊
炉 辺 咄 く つ く つ と 鍋 和 せ る か な
影 も た ぬ も の の 蹤 き くる 雪 月 夜
仮 の 世 の 道 確 か む る 踏 俵

ひと邑をふところに抱く雪女郎
蹠のかたちになむざらめ雪
白波の等間隔や耳袋
担がる大鱈の腹たぽたぽと
空を呑むやうに吊られし鱈の口
神饌の魚より雪の匂ひかな
神前に大鱈比べ漢ら酔ふ
立春や丘の向うの怒濤音
婆の手に一番採りの石蓴かな
二つ三つ雪のかかりし椿かな

山河集

同人作品



神蔵
器選

枯木立抜け来て版画美術館 鈴木 庸子

ジヤンピングしてゐる茶の葉春隣
三十三回忌にあはす四温かな
灯をおとすマリインタワーや冬の海
被せ藁のひとつに庭の淑気かな

菅原 末野

淑気満つ青竹筒の投句箱
初地曳太平洋を引寄せて
一の矢の的に適ひし弓始
鍬始貸農園の三坪ほど
ジーンズの穴かがりたる針始

岩田 都女

曾良日記天候一覽読始
彩りのゼムクリップや春隣
御慶かな大歳時記の猩猩緋

龍之介ゆかりの茶屋や梅探る
蕉翁のゆかりの地なり千住葱

手毬唄路地の奥へと消えてゆく
竹久みなみ

建替の紺屋に亥歳鳥総松
踏切りの四ツの柱冬董
粕汁の粕が届きし三十日かな
喪の家へ足の躓く寒の月

藪柑子日溜まりの窓受診待つ
金田 秋紫

趣の鉢に年逝く冬蔵
再びの小雪に暮れる小晦日
見えてゆく後先総べる初明り
東西のアルプス晴や針起し

◇特別作品◇

常陸逍遙

水井千鶴子

笠間稲荷詣でて春の旅はじめ
麗かや赤い喉輪の三み狐け神か
地虫出づ木舟伏せある神の庭
春塵や本殿裏の木彫り竜
きさらぎの風にこゑあり川柳
常陸路や土の匂ひの露のたう
柳絮とぶ天心記念美術館
春日射す天心遺愛の「崑崙釜」

竜天にのぼる『日本の目覚め』かな
天心の墓に椿のまくれなる
紅梅に雨やはらかき目覚めかな
春浅き黄門井戸を覗きみる
梅東風西山荘や光圀公のお成り道
御文庫より光圀のこゑ春夕べ
光圀公終焉の地や梅真白
久慈川の吊橋渡る余寒かな
薄水をのせて川面を水奔る
凍滝袋出の滝 二句に神慮の日矢のとどまれり
氷瀑に我を忘れてみたりけり
早春の想ひ出仕舞ふ旅靴

風土集



神蔵器選

春立つや四条烏丸大通り 京都

杉本葉子

紅梅と書けば紅梅眼前に

寒卵小さくなりし妻の顔

白梅や大きな牛も撮されて

薄氷を割りて人待つハイヒール

妙義より雪の下りくる露天風呂 榛原

菅原 末野

すぐ乾く切り貼り障子霜日和

布団干す鉄道警察分遣所

傍らに孫の手ありし日向ぼこ

寝静まる小児病棟春の星

海側の扉の開く初電車 川崎

北島 和装

初凧や鯨の歌に恋の歌

吉原の辺りと思ふ実南天

賑やかに椀不揃ひの雑煮餅

茶の花や隔てるものの無き里に

恵方道杉並区和田一丁目 さいたま

須藤美智子

息災の玉の如くに年迎ふ

ラガーらの塊りとなり湯気の立つ

一丁を寒の水ごと掬ひをり

寒禽を双眼鏡に捕へけり

デーブイソバク

東京

奥田 茶々

ふるさとへ戻る駿馬や冬すみれ

里山に小さき声きく冬すみれ

凧や一番星がこぼれさう

生みたての卵の温し日脚伸ぶ

春隣り改札通る盲導犬

平等院の枝垂桜に冬芽立つ

横浜

中村 洋子

年の瀬のブーツの底の小石かな

初時雨ガレのランプの灯りけり

冬期講座最前列に着席す